

初めての花のプレゼント

森 惇 千葉県松戸市 三十六歳

小学生低学年の時の話だ。誕生日に花をプレゼントを知った私は、とある場所へ走った。そこは通学路から少し外れた脇道で、美しい野花が咲いていた。

着くや否や、花束を作ろうと私は手当たり次第に花を摘んでいった。すると突然、「やめなさい！」と後ろから声がした。驚いて振り向くと、年配の女性が怒って立っていた。

私は、怖くなって泣いて話した。今日は母の誕生日であること、お小遣いをもらっていないが花を自前で用意したかったこと、以前からこの花が綺麗でプレゼントしたいと思っていたこと…。

事情を聞いた女性は諭すように言った。

「これは、野生じゃなくて植えている花なのよ。ちょっと待ってて」

そう言つて女性は、その場を去った。しばらく待っていると、女性はシャベルと植木鉢を持ってきてくれ、その場で苗ごと分けてくれた。

「はい。これをお母さんに渡しなさい」

喜んで持ち帰ると、びっくりした母が私を連れてすぐにその場へ戻った。まだ残っていた女性は、謝る母に、「最初は驚いたけど、誕生日にあげたいなんて良い子ですね」と笑って話してくれた。

後から、その花が『コスモス』という名だと知った。水やりが苦手な母だったが、その後も数年は花を咲かせてくれた。

私はプレゼントしようとして、逆にプレゼントされた。あの女性のおかげで、私は緑への愛を失わず、人の温かさも知ることができた。私にとって、一生忘れられない経験だ。